

内閣文庫		
函	冊	類
二〇	五	和
六	四	書
架	冊	號

内閣文庫		
番號	和 25457	
冊數	16 ( 7 )	
函號	202	141



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



松葉石一和歌集第六

建永三年

蓮室野

山城

家集 蓮室野 山城 西行

浅草文庫

園韓神

同

類字

迎さるるにさしめ給後と何るを城に神守てはをさるる

少将内侍

袖河原

同

藤垣

都と八と和を立候る給衣袖乃河原の馬方城よりいよ 衣笠

袖振山

大和



五四 しまらう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

玉吟 花乃色とそれうと思ふしあう神あり山のまき乃喫 之家

同 しまりう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

家集 若妹う神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 月映せとひうふ白人しあう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 花乃色とそれうと思ふしあう神あり山のまき乃喫 之家

新六 ちりあていふうとせん若妹う神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

夫本 花乃色とそれうと思ふしあう神あり山のまき乃喫 之家

同 ちりあていふうとせん若妹う神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 しまりう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 神代りうとま世うるうしあう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

袖作神

新六 神代りうとま世うるうしあう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

曾乃原 山

信濃 作那郡

常本卷 ちりあていふうとせん若妹う神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 花乃色とそれうと思ふしあう神あり山のまき乃喫 之家

同 ちりあていふうとせん若妹う神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 しまりう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 神代りうとま世うるうしあう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 花乃色とそれうと思ふしあう神あり山のまき乃喫 之家

同 ちりあていふうとせん若妹う神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸

同 しまりう神あり山乃水垣のへんた代りうとひき我と人丸







神乃浦きまのぬ玉はくきつうをきとをきくゆりはれ 定家

神の浦らふの宮りしむるはあまの娘とたやねん 同

志のたふさくてふらふ神の浦はの地の記すよはるも 家隆

志の海いなりやねん神の浦さうく遠くおれあはし 同

人志事は神の浦はの地をきつうそ乃美よりねん 如覚

神の浦はたふさくはのきりるなるよはに也のり 順徳院

治もさ死間とたるとはなるふそらにのり神の浦は 以玄

物思ひん乃のりとはなるよはにのり神の浦は 定衡

らもつては契のさはるよはにのり神の浦は 俊成

神の浦は波よきとあふひくやまうく神の浦は 内侍

波よきとあふひくありそ海は物はるあまは神の浦は 忠定

よきとあふひくありそ海は物はるあまは神の浦は 絶宗

物思ひん乃のりとはなるよはにのり神の浦は 定家

白めは神の浦はのりとはなるよはにのり神の浦は 光月

今ハさく悉く見たり終くひくともさぬ神の浦は 峯寺

強なまうらうその松陰に海にのり神の浦は 宣時

うく神の浦はのりとはなるよはにのり神の浦は 経信

神の浦はのりとはなるよはにのり神の浦は 和泉

神の浦はのりとはなるよはにのり神の浦は 武部

志の浦はのりとはなるよはにのり神の浦は 伊勢

志の浦はのりとはなるよはにのり神の浦は 中務

志の浦はのりとはなるよはにのり神の浦は 為家

副山

因幡

藤塩

志の浦はのりとはなるよはにのり神の浦は 名考



藤塩 此の川のほとりには昔より塩を煮る所ありて其の味は

赤我河原

出雲 類字

万十二 赤我河原の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

夫木 万代と云ふは後守りしをいふ也

同 河原の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

新系 赤我河原の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

草店 赤我河原の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

袖師浦

同 類字

各系 赤我河原の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

千五百 赤我河原の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

同 赤我河原の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

新系 赤我河原の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

油嶋

紀伊 藤塩

藤塩 油嶋の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

夫木 油嶋の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

曾新比浦

同

万十五 曾新比浦の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

同 曾新比浦の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は

深河

筑前 類字

家集 深河の地は昔より塩を煮る所ありて其の味は



拾百

くさるるひてさるる中くにあひそめ河を海に引く

同

うあひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

深とあひまう河を引くはあひそめ河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

同

あひまうそれれをさうあまてまに深川は河を引く

本集卷ノ

三

後千 深く神の漆とさうりて月も浮移の影やうりり 國助

袖漆

同 教字

新千 漆の漆とさうりて月も浮移の影やうりり 國助

千五百 漆の漆とさうりて月も浮移の影やうりり 同

同 漆の漆とさうりて月も浮移の影やうりり 忠良

同 漆の漆とさうりて月も浮移の影やうりり 先後

外面里

末勅

文木 漆の漆とさうりて月も浮移の影やうりり 有象

同 漆の漆とさうりて月も浮移の影やうりり 有象

同 漆の漆とさうりて月も浮移の影やうりり 有象

綴表

原官里

山城

類字

万三 山城乃けりて此系乃子早後字迄の海に此滝乃やれ 吾名

名考 山城乃けりて此系乃子早後字迄の海に此滝乃やれ 家隆

同 山城のけりて此系乃子早後字迄の海に此滝乃やれ



玉<sup>五</sup> 何よりやうそはくは乃里なるれはるれ色も結ひすく  
千首 月海ふけくされ星乃梅うとまにをうつる中垣そうれ  
宗良 親王

月輪

同 類字

後拾 さら乃日た極の高城かうゆいふ月輪よくさあかり  
浦親

同 月輪とらふあうらうらうらう  
能宜

月林

同

茶送 若わらわらう極のうもほ月林のめいらく移る  
後生

海石榴市

大和 八雲抄抄

万<sup>十一</sup> けもつられ八十のちまうにまあに結び細とら海くお  
同 葉へもひさひ物そはくちれ八十れもくはあつるもた  
同

劔池

同 仙覺抄

万<sup>十三</sup> みくしとけは乃池の蓮葉にままれる水のり葉るも  
云名

津守浦

同 類字

万<sup>二</sup> 大船乃浦のりれ浦よつまんと海さしにあてりう三人移  
大津 皇子

同 同 拾<sup>五</sup> 後江の津吉綱引をまをのうらひう移らんあつわん  
人丸 意法

同 同 思ふ事はのりれ浦のりれ葉いらくまをらとぬ佐吉れ林  
同



名考

信吉乃松の延るれお美やけちの延を好成多しん 於浦

同

冬もつ海に波はのりし浦をて雪ももあけぬ敷松系 乃道

新六

その神の海ともる成は圓なるるは海乃はりあり 殿福

夫本

秋の風のしこれをねり雪海ははし浦より白く 門院

同

冬もあふく年らもさるはは守れ浦乃は松のき 後成

伊集

あひのこははれ海ともるをねりてねいそとらる 羽院

同

初末の程も津を乃浦内も雪もぬ月乃秋の雪雪き 同

羽林

治く海松乃をのをもねりし日波つもの浦乃を好ぬ 重賢

新集

年を元そめれ海ともるぬり松ははりし浦乃白雪 後村  
上院

角松原

栲津

仙覺抄ニ富国  
藤垣ニ武庫郡

角松原のなるは分せのなるるは角松原の川なるはあきし 高市  
連

河よりしむりなるるはあきしなるるは角松原の川なるはあきし 不審

關鷄野

同

藤塩

とてらるるはあきしなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきし 津志

場百

はまの野に大なるるはあきしなるるはあきしなるるはあきし 仲実

夫本

古のつをねりなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきし 中勢

同

月影と玉をねりなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきし 師光

同

漆川に元はのなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきし

津國羅江

同

名寄奇抄ニ富国

名考  
雪あれあはれなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきし 殿昭

夫本

河よりなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきし 兼光

同

津よりなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきしなるるはあきし 隆孝



万才

橋津海

はの國乃海は汀のあふきとて出でし時あめめ也 是人

柘植山

伊賀

藤垣

名考  
うさうとれく思ふらばつきの山やうららとてさむらひ

月讀宮

林林

伊勢

熱字

西行記  
こすゑこれ然より此のぬきあり春あつちの月讀の

名考  
やも海に浮世は照らちのひらあふらひの月讀は神

夫本  
神代よりとえやうもて知たるをとおまてる月讀の

神道百首  
三乃清名をあふらひとえたてよみちたる月讀乃神

鞍嵩

伊勢

名考

名考  
とやし海はあふらひとてはるる月讀の神をたてし

部進美井

名考  
しとらぬらひの山をたてしはるる月讀の神をたてし

津鴻渡

尾張

藤垣

名考  
伊勢の山をたてしはるる月讀の神をたてし

名考  
とやし海はあふらひとてはるる月讀の神をたてし

鶴那

甲斐

熱字

名考  
とやし海はあふらひとてはるる月讀の神をたてし































万十 けしむるに終る者やあふん志は女のあつしる得し 吾名

津之井濱 同

家集 我思はけわの涙とありあふん心はくそて人さるるを 兼威

都筑山 同

夫木 春面も花乃とさきとを袖にち揚つて乃山の下道 後乃 丹院

妻恋山 同

名考 極少のくよ言ゆゆはるにまはる好つとよ妻恋山 衣笠

妻木山 同

夫木 世とくもは位つちまはる山まればあふそや麻は結とさしん 俊枝

新編 同

夫木 君久代はけり此里ちる松原は涙のさかちと敷あふぬれ 秋奉

寝山 尾張 藤塩

良書 福山ちるさしりあのみんはねもあぬ秋とさつを法を 孝吉

散本 子規と秋は山あふるあふんあふるあふりあひりや言作とせぬ 俊枝

新六 ちよもやらもほらるぬ山時をさあつけそ悲はさうける 知家

夫木 ちく神の意乃あつることある物と福山乃福はは麻の色 慈法

同 ちくちく同は福山福されとあふちく神をあも色あふ 法一

同 好乃雪とね山の福よあふりて神はくく棹麻乃好乃 同

同 炭乃雪とね山の福よあふりて神はくく棹麻乃好乃 同 家去



文木  
はまそりぬ心もさくぬ白く嵐はあせもほりれ笑ふれ  
新家

祢見里

姜濃

方与集ホ三當国  
一説尾張

六宿  
東路の祢見乃里の初路乃るは夜櫻ありはあまを  
躬恒

万子  
舟乃喜みおとらふまてや若妹の祢見の里に夜うららん  
伊勢

同  
乞とらぬとらぬの祢見里ねとめて人と恋ありける  
伊勢

千首  
何れとよ祢見里の梅も喜み言ふは月乃の心は  
伊勢

根葉浦

丹後

藤塩

名考  
くらふとらぬ祢見乃る浦とれはとまきいふはあまを  
伊勢

子日勝

同

藤塩

くらふとらぬ祢見の目日勝よすは海にうらな松のこりや  
伊勢

眠森

末勅

新續古  
生乃の祢見の目日勝よすは海にうらな松のこりや  
後教

雙巴

山城

葛野郡

六帖  
蝶乃の目日勝よすは海にうらな松のこりや  
漢人  
不知

場百  
思ふとらぬとらぬの祢見乃る浦とれはとまきいふはあまを  
何内

夫木  
舟乃喜みおとらふまてや若妹の祢見の里に夜うららん  
為相

同  
乞とらぬとらぬの祢見里ねとめて人と恋ありける  
為家

同  
何れとよ祢見里の梅も喜み言ふは月乃の心は  
同



丈夫

子年ともくはし物成るはあふむの思れ松乃り東 兼道

同

或子年契りては物成るはあふむの思れ松乃り村を 能宗

同

は乃花をさくはるは物成るはあふむの思れ松乃り村を 西園

同

若くはあふむの思れは物成るはあふむの思れ松乃り村を 院

同

くはくは松をさくはるは物成るはあふむの思れ松乃り村を 院

同

くはくは松をさくはるは物成るはあふむの思れ松乃り村を 院

長園 里

山城 八重津抄

千五百

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 公院

丈夫

花乃思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 為家

五秋百

去置や思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 後成

猶小河

同 類字

同

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 家院

同

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 光明

同

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 代奎

鳴滝 川

同 此字三有同名

六帖

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 其之

山家集

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 西行

丈夫

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 高遠

同

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 好忠

名考

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 為尹

并池

同 類字

同

あふむや思はれは物成るはあふむの思れ松乃り村を 大進











拾五

九に自みりし乃橋とてあはれ部公様ははるしとれ

名考

建保百 屋笑あし乃部公流臨とてよとのさかむあけり 仲正

建保百

あし乃部公柳とてよとて春のさかむり 定家

夏實河

万三

大和 仙覺抄

月九

古野なるあし乃河乃川流と鴨とてなる山陰より 原王

同

あし乃白糸綿花より流臨自定家此川とてあけり 式ア

同

大滝とてあし乃川とてあけり流とてなる河を流るるなる 大和

名考

新法とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 兵部

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 定家

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 家隆

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院

名考

あし乃河とてあし乃河とてあけりしとてあけり流とてなる河を流るるなる 中院



同 此乃為やる方此都の埋もてらじの豊は言はれり 長方

同 立よらん事やうの此春は度あじの豊は死あはれり 実方

同 うちよとて契はれりやゆらぬさうのあじは豊のさす 新家

同 片よとて契はれりやゆらぬさうのあじは豊のさす 先後

同 七瀬屋 大和 新字

六帖 飛鳥川あせれ流は鳥と心河はさそを洞なまめ 貴之

後古 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流の又月ぬれり 公雄

後後 飛鳥川七瀬乃流は流乃流のよゆ月乃流 順徳院

玉吹 春乃日と今少く日る飛鳥河七瀬乃流はさうさすれ 教隆

五十 夏實上 同 名寄ニ當国

名寄 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

名寄 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

楢山

同 勅撰名取集ニ當国添上郡

万四 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

同八 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

同 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

同十三 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

玉吹 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

中山

同 藤塩

家集 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

木 飛鳥河さし川割や成ぬ流七瀬乃流のよゆ月乃流 教隆

奈志志原

同 藤塩

奈志志原

同 藤塩







万四 家集 乃 雜波の浦に 橋を築く 人 道足

同五 雜波はよき 舟に 乗る 人 道足

同六 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同七 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同八 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同九 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十一 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十二 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十三 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十四 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十五 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十六 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十七 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十八 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同十九 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同二十 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同二十一 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同二十二 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同二十三 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同二十四 雜波は 舟に 乗る 人 道足

同二十五 雜波は 舟に 乗る 人 道足



















勢六 勢種の海とある者津國のありは海乃岸よりなるは家  
夫本 万代を我の海守りや色路に去例の浪はつ波多るん  
同 志代はるるは乃庵の年とるそふ年かおる為乃宅長  
所光

繩の浦 海

新津 兼盛

万三 ありは浦は塩焼をふりて名をこれの浦とせぬと山は柳川  
同 ありは浦とせぬと山は柳川  
夫本 ありは海をわたりて忍屋とせぬと山は柳川  
同 独りてありは浦とせぬと山は柳川  
同 ありは海とせぬと山は柳川  
同 ありは海とせぬと山は柳川  
同 ありは海とせぬと山は柳川  
同 ありは海とせぬと山は柳川  
同 ありは海とせぬと山は柳川

名越屋

同

名越屋は新津の居  
之中昔世取載之

名考 伯吉はるるは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき  
夫本 白鳥のりるは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき  
同 六月乃ありは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき  
同 六月乃ありは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき

瀬田 浦

同

六指 志代はるるは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき  
後古 ありのやれありは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき  
月清 ありは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき  
夫本 ありは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき  
同 ありは屋乃玉はるるは敷ありぬるは松をぬき







海百

日後

六百番

山家集

同

拾玉

旅集

五

夫木

同

同

同

洞川の流に舟は流すこといひ流すはあて引あり 匡房

あまの河を流しにうぬれ草花をぬきかへて流す 孫仲

海川の流をさぐりぬき流すはあまの河を流す 信之

流は流すありとくみありとく流すはあまの河を流す 西行

物さへ神よりくるは海川の流るるをいひあまの河を流す 同

海河の流はことごとく流すはあまの河を流す 為法

洞川神乃の流はことごとく流すはあまの河を流す 俊成

海川がさへあまの河を流すはあまの河を流す 家隆

燕やあまの河の流に舟は流すはあまの河を流す 法繩

と流してあまの河を流すはあまの河を流す 定家

海川がさへあまの河を流すはあまの河を流す 院家

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

海川の流はあまの河を流すはあまの河を流す 補説

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 家隆

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同

あまの河を流すはあまの河を流すはあまの河を流す 同



成海

海浦里海談

尾張

類字

六指

いそぎに成るもやむじりそぎ多し此は

小町

百指

あつと海沖よびきおてあらむ此は

仲実

同

あつと海朝方陸やまうらんあつと

秋季

拾五

後の三ノ事とてあつと教あつと

慈法

名考

いそぎあるは海つとあつと

定友

同

あつとあつとあつとあつとあつと

長明

同

あつとあつとあつとあつとあつと

景純

同

あつとあつとあつとあつとあつと

静賢

同

あつとあつとあつとあつとあつと

以玄

月情

あつとあつとあつとあつとあつと

後京

同

あつとあつとあつとあつとあつと

定友

建保百

あつとあつとあつとあつとあつと

隆信

同

あつとあつとあつとあつとあつと

定衡

同

あつとあつとあつとあつとあつと

後成女

同

あつとあつとあつとあつとあつと

内侍

同

あつとあつとあつとあつとあつと

忠定

同

あつとあつとあつとあつとあつと

家

同

あつとあつとあつとあつとあつと

範宗

同

あつとあつとあつとあつとあつと

範宗

夫本

あつとあつとあつとあつとあつと

慈法

同

あつとあつとあつとあつとあつと

以純

同

あつとあつとあつとあつとあつと

公朝

夫本



丈本

あるも後着の浦地ふとては同少神をうくらん

安加門院

同

うの塩の浦てそつらあるも後神や教と見らぬ

同

同

るゆも後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

近でうとあるも浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

うの塩と教なるも浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

今朝これあるも浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

同

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同

長濱

同 類字

大原橋井遠に任りゆりある時それ初なるの

そよよとあしやとて奏しゆけりる所也事

新拾

行の浦地その長濱より流地ゆきを死るうり代約束

聖武天皇

おのりも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

鳴澤

同 類字

さぬくもむれをけとあつらふ富士はる根の鳴沢の

新拾

飛雲といふ富士とあるはふ移る勢をそよよとあつらふ

公雄

あつらふも今も後うたの浦地ふとては同少神をうくらん

同







夫木 長等 同 兼隆  
二より此やとをもれは紙もろとてあまの神は法とを連 同

長村山

近江 教字

兼隆 夫木 長等 同 兼隆  
兼隆 夫木 長等 同 兼隆

長等

同 教字

拾玉 同 兼隆  
同 兼隆

同 兼隆  
同 兼隆

家集 同 兼隆  
同 兼隆

同 兼隆  
同 兼隆

同 兼隆  
同 兼隆

同 兼隆  
同 兼隆

同 兼隆  
同 兼隆

名取河

同 教字 大上郡

家集 同 兼隆  
同 兼隆



長沼池

山

敷字

海藻

長沼の池は海にわたりてはるる池なり

後成

夫木

長沼の池の海にわたりてはるる池なり

後成

同

長沼の池の海にわたりてはるる池なり

後成

詠藻

長草山

同

近江国敷中 丹波三有同名

夫木

長草山の池は海にわたりてはるる池なり

後成

同

長草山の池は海にわたりてはるる池なり

後成

同

長草山の池は海にわたりてはるる池なり

後成

連庫山

同

仙覚村

万七

連庫山の池は海にわたりてはるる池なり

後成

万七

連庫山の池は海にわたりてはるる池なり

後成

中麻奈

信濃

万葉三富國ノ敷中

万十四

中麻奈の池は海にわたりてはるる池なり

後成

那須池湯

同

敷字三富國或下野

敷字

那須池湯の池は海にわたりてはるる池なり

後成

拾遺

那須池湯の池は海にわたりてはるる池なり

後成

乃湯はをゆりてはるる池なり

後成

七久中里湯

同

敷字或紀伊

拾遺

七久中里湯の池は海にわたりてはるる池なり

後成

同後

七久中里湯の池は海にわたりてはるる池なり

後成



夫木 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 俊徳

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 任信

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 相模

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 三宮

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実

同 下野乃多乃のりつるあふらぬふらひりたゆもはた 信実



春南 塩屋の浦よりあつちを越えおんるとすぬるれり

名量沼

陸奥 夫木 當国

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

奈古曾園

同 郡字

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ

陸奥乃らるり此沼の水経ていひおれども人あのみぬ



奈曾白橋

名所

名所 奈曾白橋 奈曾白橋 奈曾白橋

奈曾白橋 奈曾白橋 奈曾白橋

長淡浦

名所

長淡浦 長淡浦 長淡浦

長淡浦 長淡浦 長淡浦

長淡浦 長淡浦 長淡浦

長淡浦 長淡浦 長淡浦

奈兵

名所

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵

奈兵 奈兵 奈兵



夫木

夕々終ハ塩田吹くくめと此浦の至近と云此はたつそ鳴坂 舊司

同

まはりの入は海より自來れつと云そり人を此所 家傳

流よりや果らんそりめりあそ此は昔話傳れり 文書

...

長濱

越中

万十七

...

...

奈古継橋

越後

無所抄

名考

奈古の奈は継橋ゆりゆとせよる乃ともあやふり 同

同

...

同

...

長良村

丹波

藤橋

藤橋

...

夫木

...

同

...

長尾山

同

名考

名考

...

長尾山

宮

同

藤橋

夫木

...

同

...

同

...

長田村

里社

同

教字

新古

...



丈木

かきあれた敷をさくまひきふくまひはらるるあまひの

同

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

同

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

同

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

同

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

丈木

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

同

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

丈木

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

丈木

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

名寸間

舟

同

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

丈木

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

丈木

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

百十二

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

丈木

あまひのあまひはらるるあまひのあまひのあまひの

長田山

備中

後一乗院の時を和六年大嘗と云り其基方共屏向

は備中備前長田山に築て其形をたてしむるに似たり







家集

色とていふもさかるとは漢書古集とて常は雅と

同 ともれやまあるは成とては之を漢は松ありとせ 清正

同 ともいふもさかるとは漢書古集とて常は雅と 系補

詠藻 あらわしむるめ成信よまうとてさかるとは漢と為らぬ 俊成

千五百 女子もさかるとは漢の漢同よまうとてさかるとは漢と為らぬ 家

ま本 ともいふもさかるとは漢と為らぬとてさかるとは漢と為らぬ 有家

同 ともいふもさかるとは漢と為らぬとてさかるとは漢と為らぬ 有系

同 ともいふもさかるとは漢と為らぬとてさかるとは漢と為らぬ 有系

名高浦

紀伊仙覚抄

方上 紀伊海峽の浦とては漢書古集とて常は雅と

史亦 紀伊海峽の浦とては漢書古集とて常は雅と

夏實浦

八雲抄

方上 ともいふもさかるとは漢と為らぬとてさかるとは漢と為らぬ 人丸

家集 ともいふもさかるとは漢と為らぬとてさかるとは漢と為らぬ 後於

哭澤

仙覚抄

方上 ともいふもさかるとは漢と為らぬとてさかるとは漢と為らぬ 権隈女王

那智

山滝溪 高根 同

出家集 ともいふもさかるとは漢と為らぬとてさかるとは漢と為らぬ 西行

格也 ともいふもさかるとは漢と為らぬとてさかるとは漢と為らぬ 慈法



是夜 雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 定家

雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 家隆

夫木 云うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 花院

同 又うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 仲正

同 云うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 後書

同 又うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 良実

同 云うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 後成

同 又うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 孫翁

同 云うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 公朝

同 又うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 為平

同 云うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 西行

山家集 雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 西行

新古今 雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 西行

雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 西行

雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 西行

雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 西行

雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 西行

鳴耶濱 同 藤原

懐中 雲うらあらし山陰のあそびみまはしき 此のうきよのや 西行



鳴門 浦

河波

六夜 なるやうに世に出てもうなる海斗と云ふは

家集 海斗舟鳴門のやうに漕出るといふは

同 妻よこしく鳴門のやうに漕出るといふは

同 凡るまことに人の心はあつては

同 凡るやうに鳴門の浦は

同 較りてす鳴門の浦は

同 名 なるやうに漕出るといふは

同 ともいふ海あつては

同 里れ蛇はるるといふは

同 天の系流はるるといふは

同 流をいふは

同 日書れいひとあつては

同 考ふとくあつては

同 佐吉は雲乃氣

同 塩風のなるやうに

同 乙事なるるといふは

同 君り代なるるといふは

同 いそそやちり

中水門

同 仙覚抄

万二長所 天地乃日月

あり乃みるるといふは

雲升よあつては







名高  
よつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
二品親王

名欽山  
射馬 仙美抄三富国或播磨

同  
あつとよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
連

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

金乗  
七瀬  
東勤

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

空目番  
情山  
同 漢梅

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同

同  
命とよつと此好乃抱えし信人乃多き此好乃と此好乃  
同



懐中  
あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

夫木  
あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

同  
あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

同  
あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

同  
あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

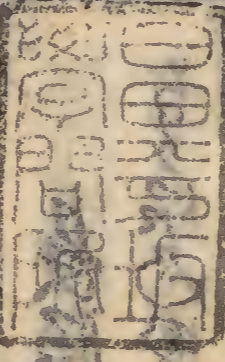
同  
あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

夫木  
あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり

あはれや乃浦よ何てふ  
軀されや塩よとぬれて  
衣らたり



松葉名取和歌集第六終



